



徳島大医学部
中西 秀樹教授

・傷といってもちょっとしたこ
とでできる「すり傷」から「や
けど」「交通外傷」「褥瘡（じよく）
（こすれ）」「糖尿病の足の壊疽
（くさる）」など様々な種類があ
り、浅い傷から手術が必要な深
い傷まで程度も異なります。従

や人工皮膚に近い医療創傷被覆
材を用いて傷の処置をしていれ

ば良いとの考えに
変わってしまし
た。この軟膏や医
療創傷被覆材を外
用する治療法は傷
をうるおった環境
に保ち傷を早く治
すのに必要です。

また、傷の新しい治療法としては最近開発された陰圧閉鎖療法があります。この方法は、深い傷の中にスポンジを入れて陰圧をかけて中の汚い浸出液を外に吸い出して、肉芽を盛り上げて傷を治す治療法です。手術後に傷が大きく開いた傷や褥瘡、糖尿病の足潰瘍など難治な傷の治療法として最近多用されています。

傷の治療法は、手術をしない
で外用薬などを用いる保存療法
と人工皮膚や植皮、皮弁などを
用いる手術療法があります。傷
がひどく細菌に感染した場合
は、傷の消毒が必要になります
が、感染が強くなければ傷を消
毒せずに水で洗います。強い消
毒液を用いると、痛みや傷の治
りが遅れたり、接触皮膚炎（か
ぶれ）になることもあるので注
意しなければなりません。



傷の治療 正しく、早く、キレイに

この水やシャワー
などで傷を洗う
水治療法（温治療
法）は新しい治療
法で、以前は傷が
あるとお風呂に入
ってはいけないと
言われていました
が、シャワーをし
て、すぐに外用薬

傷を早く治して
できるだけ傷跡に
ならないように、
傷をしたら早く形
成外科を専門とす
る医師の治療を受
けることをお勧め
します。傷跡は
醜状として残るばかりでなく
心の傷になりやすへ、適切な治
療が望まれます。